

地域材を生かした地域型住宅づくりの募集について(概要)

木構造振興株式会社

■ 事業の概要

住宅分野への地域材供給シェア拡大総合対策事業は、地域材を生かした地域型住宅づくりを支援することにより新たな地域材部材や地域型住宅の開発・普及促進を図り、住宅分野への地域材利用シェアの拡大を図ることを目的としております。

この観点から、これまで地域材を生かした住宅づくりを推進している各地域の製材業者、地域工務店、設計者などが共同して実施しているグループを対象にして、地域材の利用拡大に寄与する新たな地域型住宅づくりの事業を公募し、地域の風土に根ざした優れた提案課題について、木構造振興(株)と提案者との共同により地域型住宅づくりを実施します。

■ 対象事業等

(1)対象となる地域型住宅づくり事業

各地域の製材業者、地域工務店、設計者などが共同して実施している、地域材を用いた住宅づくりの事業を対象とします。(※別紙の平成21年度「地域型住宅づくり」実施一覧を参考)

また、提案される事業は、次の全ての要件に該当するものであることが必要です。

- ①地域材を用いた部材の技術開発や共通化、供給の仕組みづくり、実証展示や地域材認証等により、地域材を効果的に利用し、地域材の需要拡大に高い効果が期待できる木造住宅のモデルプランであること(産直住宅を含む)。
- ②地域材を利用した住宅プランが、地域型住宅の普及促進に寄与できるものであること。
- ③建築基準法に定める基準(構造、防火、環境など)に対応可能なもの。
- ④平成23年2月末までに完了できるもの。

(2)対象応募者

応募者は、(1)の事業を行うグループとし、グループ内の製材業者、工務店、設計者などの協力体制が確保されていることが条件となります。

応募した地域型住宅づくりの事業が採択されますと、その事業について木構造振興(株)との共同事業契約を行い、事業を実施して頂きます。

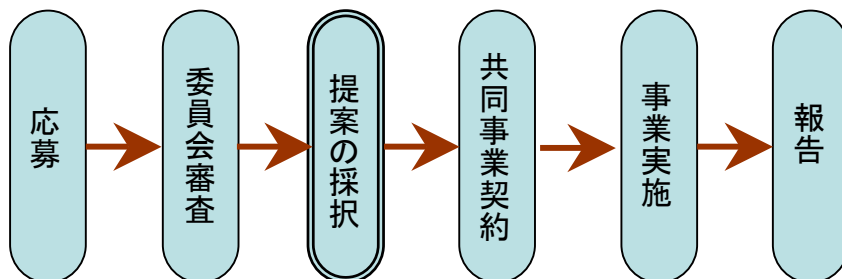
(3)経費の負担

地域型住宅づくり事業における経費は700万円を上限とし、木構造振興(株)がその全額を負担します。

なお、負担を行う金額については、予算枠等を踏まえ、応募申請額に対して調整の上、決定させていただきます。

■ 事業の流れ(応募者の主な手続き)

※事業実施にあたり、事務局による合同説明会を実施



■ 公募期間および問い合わせ先

公募期間:平成22年6月21日(月)~平成22年7月5日(月)

※詳細はHP(<http://www.mokushin.com/>)に掲載した「地域型住宅づくり募集要領」をご覧ください。

<問い合わせ先>

木構造振興(株) (担当:古澤、大澤)

FAX 03-3585-5598

E-MAIL jigyoun@mokushin.com

No.	実施者名 (代表者)	実施事業名	実施概要	団体所在地
1	特定非営利活動法人北海道住宅の会 理事長 林 芳男	木造道産家（きづくりどさんこ）ツーバイフォー部材供給事業	枠組壁工法住宅における道産材の活用をテーマに事業展開を行った。モデル地域として全国一枠組壁工法住宅のシェアが高い十勝圏を選定し、十勝2X4協会と共同で事業を実施した。主として①カラマツ製材の2X4製品化に向けた試作およびモデル建設②プレフレーミング工場で道産資材をアッセンブルする流通実験を行った。	北海道
2	秋田スギ厚板活用構法研究会 代表 工藤 晃	秋田スギ厚板活用住宅の開発	秋田スギ材のうち、大径ではあるが比較的低質のため用途が限定されているB材等の有効活用のため、厚板を利用した住宅モデルの検討を行った。厚板の定義を30mm以上の厚さの材とし、厚さが30mm、45mmの2種類、幅が180mm、240mm、300mmの3種類を製材し、これらを組み合わせた壁面、床、屋根、軸材の開発を行った。	秋田県
3	NPO木の家だいすきの会 代表理事 鈴木 進	武蔵野の現代民家の開発	武蔵野の成熟した住宅地における建替ニーズに対応した現代民家の開発を行った。テーマは①街並みづくりという観点からの「親コミュニティ」②県産ハイブリッド乾燥（天然乾燥＋補完的人工乾燥）木材の使用③クーラーのいらない住宅とした。主として①モデル住宅の設計および標準仕様書の作成②県産ハイブリッド乾燥材の規格化の検討を行った。	埼玉県
4	トヤマウッドネットワーク 代表 池田 通則	とやまの木の家（門型フレーム）	富山における魅力ある住まい・まちづくり・環境のミックスを考え、道路に対して間口の狭く奥行きが深い「まちなか」の敷地にフィットするモデル住宅を検討した。具体的には、梁間方向に壁量を要求されないスパン5,460mm（3間）以内の、製材品による門型フレーム住宅を開発することを目標とした。グループメンバーおよび富山県内の金物メーカーと共同で結合部の検討を行い、強度試験によって評価した。	富山県
5	「京北の木で家をつくろう」ネットワーク 代表 住吉 豊	京北産葉枯し自然乾燥材のストックと供給の仕組みづくり ー京都の町家の新築と改修への活用に向けて	京都に於ける天然乾燥材の普及・流通の為、試験伐採と品質確保と表示の為、含水率の変化や強度等の調査を行った。また、葉枯らし乾燥材の有効的な使い方である伝統京町家に注目し、「新築町家標準モデル」および「既存町家改修モデル」の検討を行った。	京都府
6	川上産吉野材利用促進ネットワーク協議会 代表 上寫 逸平	奈良県吉野のスギ・ヒノキを使った「長期優良住宅モデル」	道路交通網の整備により時間距離が短縮された奈良市や大阪府の都市住民に向けた、吉野材の需要拡大を目指した「長期優良住宅モデル」の開発と、設計・施工マニュアルの整備による部材の共通化、並びに本住宅モデルを通じた地域材活用住宅の普及啓発活動を行った。モデル住宅の性能は、長期優良住宅の評価基準を満たすと共に、自立循環型住宅への設計ガイドラインによる評価、並びにCASBEEすまい戸建による環境評価を実施、評価した。	奈良県
7	清流高津川を育む木の家づくり協議会 代表 田村 浩一	高津川流域型住宅の開発	国交省選定2年連続水質日本一の清流高津川流域の豊富な森林資源（特に杉・広葉樹）を活用した構造材現わし仕上げ、スケルトン・インフィル手法の石見地方の風土景観に配慮した地域型住宅モデルを検討した。主として①設計マニュアルの作成②スギ板材の準不燃化の技術開発を行った。	島根県

No.	実施者名 (代表者)	実施事業名	実施概要	団体所在地
8	ひろしま木の家づくりのネットワーク 木の香る住宅工房 代表 保井 英三	安芸佐伯杉を用いた「ひろしま木の香る家・次世代プロトタイプ」	良質な乾燥材供給が可能となった葉枯らしの安芸佐伯杉を、不安定な経済環境に置かれた若年子育て世代が使えるよう、平坦地が少なく郊外高齢化に悩む広島都市圏の現状を踏まえた住宅プロトタイプを開発設計した。各種立場の有識者へのヒヤリングを通じた課題把握により①設計方針・計画プランの検討②設計マニュアル等の普及ツールの開発を行った。	広島県
9	伝統的技術による地域循環型住まいづくり研究会 代表 大西 泰弘	大工がつくる地域産小径木材による短スパンユニット型住宅	地域産材の特性を生かす左官や大工など地域の伝統的技術を使いながら、中小径材を活用した短スパンユニットで構成する地域型住宅モデルを検討した。主として①住宅モデルの設計②背割り乾燥による開き止め「カスガイ」の開発③ヒノキ化粧小幅板の開発④木材履歴情報の様式作成を行った。	香川県
10	「生地の家」職人ネットワーク 代表 小椋 清市	適湿型地域住宅「生地の家」の開発	高温多湿の熊本の地域に適し、ある家族像の小住宅の枠組の中で、環境木材を表現した木構造住宅を検討し、モデル住宅を施工した。主として①渡り顎構法と落とし込み耐力壁を組み合わせた構造体の実験②手刻みのプレカットスケルトンの開発（部材化）③調湿住宅としての性能評価④マニュアルの整備を行った。	熊本県
11	飫肥杉活用推進委員会 代表 稲元 靖教	宮崎県地域型住宅（スギ厚板を共通部材として用いる新宮崎の家）	大径化が進むスギ丸太から取る厚板とそれを接着して作る合わせ材を共通部材とし、ピンで金具を留め付け鋼板を挿入して補強する高強度接合部により軸組を構成し、開口の大きな地域に密着した平屋建て新宮崎の家の開発を行った。主として①大径材からの合わせ材の開発・評価②モデル住宅の設計・施工を行った。	宮崎県